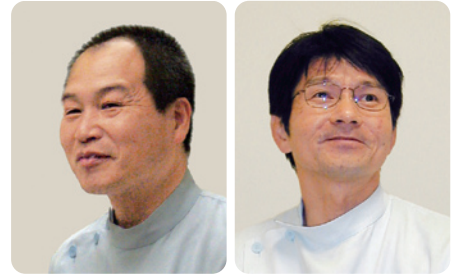


FLEXAVISIONは 当院にとってベストな選択、 正解でした。



技師長 石橋 一久 先生 川本 昭仁 先生

C Rカセット速写, コンパクト, 昇降寝台をポイントに, 予算も考慮。

前X線テレビ装置が21年を経たため、唯一実現できていなかったX線テレビ画像のデジタル化と予算を考慮し、II.-DR 搭載装置を①コンパクトであること(部屋が3.53×4.7mと狭い)、②画質が確保できること(DIP や骨撮影がフィルムと対等か)、③装置水平時に寝台が極力低く下がること、をポイントに検討しました。

決 定打は, 透視ができる半切CRカセット速写。

当院では今回買い替えた装置のほかに100万画素DR搭載装置(12" II.)も使っています。胃・注腸透視など通常の撮影はDR撮影で十分です。しかしDIP検査が多い当院ではやはり分解能やコントラストに優れたCRが必要であり、さらに透視しながらタイミングよく撮影したい。従来の1枚撮りでは不可能ですが、CRカセット速写機能搭載のFLEXAVISIONだけは可能だったのです。しかも半切でできる。大きな決定打となりました。さらに一番コンパクトで工事をせず既存の部屋にそのまま設置でき、寝台昇降もできる。当院にはベストだと。実際に使ってみて透視から撮影までのタイムラグがなく造影剤の流れる瞬間が想像以上にとらえやすい。大きな半切カセットが寝台下で移動するのに音も気になりません。

昇 降機能で寝台がより低く。 患者さんの移動も楽で安心です。

前の装置は天板水平時でも寝台高さが90cmありました。ストレッチャーや車イスの患者さんには苦痛をがまんしてもらいながら、抱えて寝台へ移動しなければならず、また脱臼整復の場合は、さらに医師がその上に乗るといった不安定な状態でした。FLEXAVISIONはコンパクトでかつ寝台も昇降し69cmまで下がる。骨折の整復、関節造影、大腸ファイバー、イレウスチューブ挿入などいろいろな検

査の患者さんがストレッチャーやベッドで入室されるので昇降は頻繁に使用します。寝台への移動が楽で安心でき、非常に助かっています。



斜 入撮影ができるので安心です。 いざという時に便利につかえます。

一般撮影室での検査が滞る場合など、そのバックアップとしてこの装置の斜入機能*を利用したCR撮影ができるので安心ですね。腰椎の角度を揃えたり、鎖骨を下からすくったり、肘や膝でも角度を微調整でき、また頸椎も立位でかつ斜入ができさらにうまく撮影できます。当院ではさまざまな検査の依頼がきます。嚥下造影や肩関節造影なども飛び入りでできることもあります。管路がフレキシブルに動くことで、すいぶん使いやすくなり、臨機応変・多機能に使えるようになります。そういう面でも、コンパクトで乗り降りが楽という点はいいですね。ふつう昇降と斜入ができる装置は大きいですから。 *オプション

フ ィルムレスを実現。 思っていた以上に業務が楽に。

以前は暗室へ走って現像し、フィルムをデジタイザーで読み込む作業が必要でたいへん手間ひまがかかっていました。今ではマウス操作だけで写真ができあがってくる。さらには検査終了と同時にフィルムミングと画像サーバーへ転送するようにも設定でき非常にスムーズです。撮影後により最適に画質調整もできる。そしてそれらすべてをコンソールで集中してできる。自動現像機の管理もいらぬ。おかげで効率化が図れ、他の業務にあてる時間ができました。詰め所などのモニターでかんたんに読影したいという先生の要望にも苦勞なく応えられています。画質もいい評価をもらっています。

導入を
お考えの先生への
一言

特に画質を重視するDIPでは透視しながら半切CRカセット速写ができる。コンパクトで昇降ができ患者さん、スタッフにやさしい。操作は説明書を読まなくてもできる。導入して正解でした。